

## 令和6年度懇話会での意見まとめ

## ■新たな学びについて

文部科学省の政策展開や本市での園小中一貫教育の取組を踏まえ、子どもの将来や人との関わり観点から意見交換を行った。

新たな学びに期待する声

- 新しい学びについては、「個別最適な学び」に着目し、**子どものやりたいことを伸ばすことができること**や、**じっくりと子どもを育てられること**を理由に肯定的な意見が多かった。

意見例) 子どもたちに自身のやりたいと思うことをやらせてあげたい。そのくらいでも能力は育まれると思う。

- その上で「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランスよく行うことが望ましいという意見もあった。

▲気になることのひとつには、**協働的な学びのなかで集団に馴染めずに不登校になる**ことが挙げられた。

▲その対策として、不登校の子どもが登校した際に一人で学ぶことのできるスペースを確保することや、協働的な学びの際に取り残された子どもを支援する教員の配置が挙げられた。

意見例) 子ども達に取り残されることのないよう、適切な教員数を確保する必要がある。

▲他には、**新しい学びのスタイルでは学習成果が表れにくいのではないか**という懸念の下、保護者の理解が得られずに塾に通わせる家庭が増えるのではないかという意見もあった。

新たな学びに関して気になる声

## ■義務教育学校について

本市の園小中一貫教育の取組や学識による事例報告を踏まえ、意見交換を行った。

義務教育学校に期待する声

- 義務教育学校については、**小学1年生から中学3年生までの9年間を子どもは同じ環境で過ごすことができる**とともに、**教員にとっては9年間の発達を一貫してみることができる**という理由から肯定的な意見が多かった。

意見例) 小学校と中学校では、教職員の子どもへの見方が大きく違う。義務教育学校になることにより、9年間の発達を適切にみられる。

- 特に、小学1年生から中学3年生までの幅広い年齢での異学年交流が可能になり、下級生にとっても上級生にとっても成長になることを期待する意見があった。

意見例) 異学年交流が盛んになることはよいこと。下級生は上級生をみて成長でき、上級生は下級生に物事を教えることで成長につながる  
中学生は結構自立しているため、教職員が必要以上にマネジメントしなくとも中学生を筆頭に色々なことができるかもしれない。

- 中1ギャップの解消につながる**ことへの期待が意見として見られた。

●義務教育学校移行に伴う学校統合に関しては、**適正な学級数になる**ことを理由に肯定的な意見が多かった。

●その他、放課後の学校で子どもが過ごせるようになること、兄弟姉妹のいる家庭にとっては子どもが一所にいることで安心できるという意見もあった。

▲義務教育学校を整備する場合には、保護者等の理解も不可欠であり、**保護者等とのコミュニケーションの必要性**に関する意見もあった。

▲教職員の環境に対する適応についても意見があり、小学校と中学校でのワークスタイルや子どもに対する評価方法の違い、授業方法の統一など、実態的な課題についての意見があった。

義務教育学校に関して気になる声

## ■敷地選定について

大根小学校、広畑小学校、大根中学校の面積や通学路を比較したところ、大根小・中学校敷地が望ましいという前提で意見交換が行われた。

大根小・中学校敷地での整備に関して期待する声

- 大根小・中学校敷地は、どのケースよりも**敷地が広い**ため**施設整備の自由度が上がり、学校行事等の可能性も広がる**点で選ばれていた。

意見例) 大根小学校・中学校敷地の方が利便性も高く、広いためよい。学校行事等のことも考えると敷地は広い方がよい。

- 敷地の広さを踏まえ、異なる年代の子どもたちが使う施設であることから、**余裕を持った施設整備をすることが望ましい**という意見があった。

▲大根小・中学校敷地で統合した場合、広畑小学校区の南側に住む児童の通学距離が長くなり、熱中症の心配があることから、**通学支援の必要性**の意見があった。(広畑小学校で整備した場合は大根小学校区の北側に住む児童の負担が大きく、いずれも支援が必要となる。)

▲支援の可能性として、スクールバスや自家用車での送迎が挙げられており、そのために**敷地内等にロータリーをつくる**こともアイデアとして挙げられた。

意見例) 自家用車による送迎ができるよう学校にロータリーをつくる等してほしい。義務教育学校が大根小・中学校に整備されるなら現在の大根公民館の敷地を活用できるかもしれない。

大根小・中学校敷地での整備に関して気になる声

## ■公共施設との複合化について

本市の公共施設マネジメントの考え方や学識による事例報告を踏まえ、公共施設との複合化について意見交換を行った。

公民館との複合化に期待する声

- 公民館との複合化は、子どもの居場所・学び場・遊び場、高齢者と子どもの交流の観点から前向きな意見が多く、公民館のなかに学校があるイメージも提起された。

●子どもの学びの場という点では**子どもを対象とした講座の実施など、社会教育の活性化**が期待された。遊びの場に関しては**放課後の居場所の観点から、友だちと遊ぶ場所として期待された**ほか、公民館と合併して大人の目が増えればグラウンドの開放も可能ではないかという意見もあった。

●高齢者については**子どもとの交流により元気になり、地域の活性化につながる**ことが期待されていた。

●その他、社会に開かれた教育課程に資するような学びの機会についてアイデアが提起された。

▲複合化することに伴う安全性確保が指摘されたものの、**大人の目があることが抑止につながる**ことが期待されていた。

▲セキュリティのために学校と公共スペースを区分した上で、図書館や家庭科室などの**共用(学校と地域の両方で利用すること)の可能性を探る**ことを求める意見もあった。

▲大根小・中学校敷地での整備や大根公民館の複合化を踏まえ、広畑小学校の体育館(一時避難所)や広畑ふれあいプラザが今後どのようなものかについて懸念する意見があった。

意見例) 広畑小学校の避難所機能が残るのが気になる。大根小・中学校までは、広畑小学校周辺の人にとっては非常に遠い。ふれあいプラザがどうなるのか。団地の人たちがどのような生活ができるのか、掘り所にできる場所を残せるのかを心配している。

公民館との複合化に関して気になる声